

謹賀新年

謹んで新年のお慶びを申し上げ
併せてご家族皆様のご多幸をお祈り致します
令和2年元旦

阿部敏雄(敏翁)

2014年以來、年の初めに旧年の年次報告的なやや長文の賀状を纏めてきましたが、
昨年は一昨年家内が亡くなり忘中の為中断しました。
本年改めて再開し、近況報告を纏めてみました。
歳のせいか中々氣力が湧かず、やっと松の内に纏める事が出来た次第です。
ご笑覧頂ければ幸いです。

私も本年2月には90歳を迎えるので、身体の諸部品の傷みも目立ち、
ゴルフも体調と相談しながらどうやら年10回ほどプレイしてはしていますが、
スコアにはならず、身体劣化の総合的指標評価の一つにはなる事に強いて意味を
見出しつつ続けてはいます。

一方、頭脳の働きは歳の割には良く動いている方とされていて、電子機器や
インターネットなどエレクトロニクスの更なる活用にも私なりのユニークさが打ち出されて
いると思うので先ずそれに関したここ一年の活動をお話することに致します。

I. エレクトロニクスの活用

ここでは昨年を振り返るのに、

- ①12月2日発表の『新語・流行語トップ10』
(「現代用語の基礎知識」選)及びその候補30(①b)、
 - ②12月3日発表の日経MJヒット商品番付(日本経済新聞社選)、
 - ③12月5日発表の「今年の新語2019 10件」(三省堂辞書を編む人選)
- を参照しながら、纏めて見る事としました。

1.1 スマホと〇〇ペイ

今年3月にガラケイからスマホに切り替えました。

先ず、SNS特にLINEを始め仲間も数人は見付けましたが、その交流は活発ではありません。

その後、Lineペイを始め、現在ペイペイ、メルペイなどを

「キャッシュレス/ポイント還元」(①b)等に活用しています。

尚、「〇〇ペイ」が①に、「一ペイ」が②の大賞に、「キャッシュレス」が③の西の横綱に
選ばれています。

正しく今年は、〇〇ペイを中心としたキャッシュレス元年とも言える年として歴史に残る
と思われまます。

しかし、見渡すところ同年代で〇〇ペイを使える人を殆ど見掛ける事が出来ないのが残念です。
この理由は、〇〇ペイをインストールするには、2段階認証という特殊な技術が必要で、

年配者はその壁を越えられないのだと思っています。

実は私も Line ペイでは悪戦苦闘しましたが、要はやる気の問題だと思っています。

私はドコモの遠隔サポートというサービスを活用してこの壁を乗り越えたのです。

「2段階認証」について少し触れると、認証作業の途中で私へ SMS で認証コードを送って来る場面になるのですが、その認証コードを、現状を保ちつつ読むのにスマホ特有の指先の技が必要になるのです。

これだけでは分からないと思いますが、詳細が知りたい方がありましたらお知らせ下さい。
初心者の方が独りでは困難なワークだと思っています。

1.2 免許返納と安全サポカー

昨年は、高齢者の自動車運転ミスによる人身事故が大きな話題になり、免許返納が声高に叫ばれた年となりました。

尚、「免許返納」は①に選ばれています。

私もここ数年来、車の運転を何時止めるか、続けるとすれば高齢者固有の踏み間違いなどの危険にどう対応するのがベストなのか、などについて世の中、自動車業界などの動き等をウォッチしつつ迷ってきました。

そして、家族や親戚など全員反対の中、安全サポカーに乗り換える決断をしました。
娘達には、貴女方の父親は、普通の老人ではなく、スーパーシニアである事を、
上記 1.1 でお話ししたスマホを普通の老人とは思えない速さでマスターしている事などを例にとって説得してみました。が、納得しているのかどうかは定かではありません。
呆れて私の説得は諦めたのかもしれませんが。

尚、娘達や甥姪達も諸兄同様(?)○○ペイはやっていない様です。

ご存知とは思いますが、以下経産省による サポカー／サポカーS
(安全運転サポートカー)のWEB サイト <https://www.safety-support-car.go.jp/>
よりの抜粋です。

政府は高齢運転者の交通事故防止対策の一環として、
被害軽減（自動）ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置等を搭載した車
(安全運転サポート車)に「セーフティ・サポートカーS（サポカーS）」の愛称をつけ、
被害軽減（自動）ブレーキを搭載した車「セーフティ・サポートカー（サポカー）」
とともに、官民連携で普及啓発に取り組んでいます。

「セーフティ・サポートカーS（サポカーS）」とは被害軽減（自動）ブレーキに加え、
ペダル踏み間違い時加速抑制装置等を搭載した、特に高齢運転者に推奨する自動車です。

サポカーSは被害軽減（自動）ブレーキの機能に応じて、3つの区分がありますが、
一番多く機能の付いているのが、「サポカーSワイド」で
被害軽減（自動）ブレーキ対歩行者&対車両)、ペダル踏み間違い時加速抑制装置、
車線逸脱警報、先進ライトが付いています。

その「サポカーSワイド」をトヨタ車の中から選びました。
選定の手順は省略しますが、コンパクトカーで、ゆったり乗れて、満席でもキャディバッグ

が積める車の中から「ROOMY」という車を選びました。

我が家の車庫に入れたルーミーをご覧にいます。

1000CCの割に重い車で、試乗した感じでは加速にやや難がありそうなので、ターボ付きとしました。



この車はダイハツで作っていて、自社ブランドでは「トール」、トヨタカローラ系では「ルーミー」、ネッツ系では「タンク」のブランドで販売していて、合計販売台数では、ホンダのベストセラー「Nボックス」に次ぐものになっているようです*。
(一般に公表された統計では解りませんが)

現在、この車でゴルフ場通いの外、「キャッシュレス／ポイント還元」店を探しては通っている次第です。

*注：2018年の新車販売統計では、年間一位がホンダのNボックス24.2万台、2位はスズキのスヘーシア15.2万台、以下省略してトヨタのコンパクトカー「アクア」は7位12.6万台。これに対してルーミー、タンク、トールの合計は、18.6万台

1.3 令和とラグビーワールドカップ と(4KTV)

今年のトピックスとしては、「令和」に関連する諸イベント、と「ラグビーワールドカップ」があります。前者は①に、後者は②で東の横綱に選定されたほか、関連ワード「ONE TEAM」が①の年間大賞に選ばれています。

私は、それらの何れも直接見えてはませんが、4K 65インチの液晶TVを増税直前に購入して、ラグビー大会に於ける「ONE TEAM」の活躍ぶりや、天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典(11月9日)及び翌日のパレードを見ましたが、大いに満足しました。

購入したのは東芝の液晶TVとしては最高位に当たる65Z730Xです。東芝の最高位TVは65"の有機ELTVですが、これは50万円近くし、その特徴は黒の表現にあると言われていたのですが、本液晶TVは25万円程度であり、リアルブラックエリアコントロール

技術（全面直下 LED バックライトを映像エンジンによって緻密にエリアコントロールすることで、輝く白と奥行き感のある黒のコントラストを両立）により、有機 EL と見比べても殆ど遜色が見られない事をビックカメラで確認して購入したものです。

尚、国民祭典は、4K と地デジ両方で放映していたので見比べてみましたが、殆どその差を感じる事が出来ませんでした。 **

これは、映像処理エンジンにレグザエンジン Professional と名付けた深層学習など AI 技術を活用した、レグザ独自の新聞発エンジンを搭載した事により実現したのでしょうか。このエンジンは種々な機能を持っているようですが、地デジや映画をさらに高精細に再現するアグプティブフレーム超解像を搭載が利いているのだと思います。

これで来年のオリンピック/パラリンピックのソファにひっくり返っての観戦も大いに期待出来そうで、待ちどおしく思っているところです。

** 追記：年末の紅白歌合戦も 4K と地デジ両方で見ましたが、ここでは画像の華やかさに大きな差を感じました。4K の画像の華やかさは地デジに比べて群を抜いて見事なものでした。この放映は、単なる紅白の現場中継ではなく、そのデータに CG、AI など高度のデータ加工を加えたものの様ですが、その表現力を 4K では生かし切っているのではないかと思います。

そこにはレグザのエンジンも追及しきれないものがあるのではないのでしょうか。

II. 東芝材遊会

もう一つの話題はこれです。このウェブでも何回か紹介した事がありますが、私も創立に参画した東芝材遊会が昨年 25 周年を迎え記念大会を開きました。先ず集まった面々の記念写真を覧に入れます。撮影は前列左端の佐藤さん、私は前列右から 3 人目です。



5 年前の同種の写真と見比べて見ると何となく皆さんの老齡化が進んでいる事が目立ちます。

ここで私は記念講演『東芝材遊会の歴史と今後の展望』を行いました。

その時の資料は私の公開ワンドライブに掲載してあります。

上記赤下線部をクリックすればそこに到達できます。

この中のフォルダー「02 東芝材遊会」にある「0056 東芝材遊会 25周年記念講演資料改3.pdf」ですが、このファイルは極めて複雑な作りになっていて、そのままクリックしても良く見えません。先ず同じフォルダーの「0056 をご覧になる前に.docx」をご覧になって、その指示に随って操作願います。

そんな面倒なもの触りたくもないという方々の為に中身の概要を紹介します。

本講演は、東芝材遊会発足から、現運営体制確立(2003年)頃までの歴史をレビューし、その後の展開に触れた後、今後の在り方について一つの提言を行うというものです。

講演の中心話題の一つは、本会創立の頃に既にパソコンを使いこなしていた私が、本会運営の基本にパソコン、インターネット活用の導入を図って来た経緯です。

それにより、電子化と言う点では同種のOB会としては可成り進んだ体制をキープして来ました。

併し会の現状は、会員の高齢化や母体である東芝の経営の材料離れから会員数の減少の危機にあります。

そして、その対策として私が提案したのは、会のホームページの製作など電子化を有力なツールとして会の魅力のPR活動に活用すべきであるというものです。

今のところ会員の皆さんの賛同は余り得られてはいませんが、本年も機を見つつ粘り強く働きかけて行きたいと思っていますところ です。

以上本年のウェブ年賀状をお届けします。

一昨年家内を亡くしたショックから完全に立ち直った小生をお目にかけての積りですが、如何だったでしょうか。

以上